

LabVIEW™ リリースノート

LabVIEW 8.5 をインストールする

これらのリリースノートでは、LabVIEW のインストールとアンインストールの方法、および LabVIEW ソフトウェアのシステム要件について説明します。

LabVIEW のバージョンをアップグレードする場合は、LabVIEW 8.5 のインストールを開始する前にアップグレードパッケージに付属の『LabVIEW アップグレードノート』をお読みください。LabVIEW 8.5 で使用するために VI を変換する前に、いくつかの問題点について考慮する必要があります。

LabVIEW をインストールする前にこのドキュメントの「[システム要件](#)」のセクションをお読みになり、「[LabVIEW 8.5 をインストールする](#)」のセクションの手順に従ってください。LabVIEW をインストールした後、LabVIEW の使用を開始する詳細について、「[詳細情報](#)」のセクションを参照してください。

目次

システム要件.....	2
LabVIEW 8.5 をインストールする	7
Windows	7
Mac OS	8
Linux	9
LabVIEW アドオンをインストールする	11
LabVIEW ライセンスをアクティブ化する (Windows)	12
LabVIEW へのアクセスはライセンスのアクティブ化に依存する.....	13
シングルシートおよびマルチシートライセンス	14
ライブラリ、モジュール、ツールキットのライセンス	14
アプリケーションビルダをアクティブ化する	14
ハードウェアのインストールと構成	14
Windows	15
Mac OS	15
Linux	16

詳細情報.....	16
LabVIEW スタートアップガイド.....	16
LabVIEW アップグレードノート.....	16
LabVIEW ヘルプ.....	17
Readme.....	17
ni.com.....	17

システム要件

表 1 では、LabVIEW 8.5 を実行するのに必要なシステム要件について説明します。

表 1 LabVIEW 8.5 のシステム要件

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
<p>すべてのプラットフォーム</p>	<p>LabVIEW の最小システム要件は 256 MB の RAM ですが、ナショナルインストルメンツでは 1 GB の RAM を推奨します。</p> <p>LabVIEW を使用するには、最低 1,024 × 768 ピクセルの画面解像度が必要です。</p> <p>LabVIEW で構築されたアプリケーションをデプロイする場合、LabVIEW ランタイムエンジンには最低 64 MB の RAM、画面を必要とするアプリケーションには最低 800 × 600 ピクセルの画面解像度が必要となります。ただし、ナショナルインストルメンツでは、256 MB 以上の RAM、および 1024 × 768 ピクセル以上の画面解像度を推奨します。</p>	<p>LabVIEW および『LabVIEW ヘルプ』には、16 ビットのカラーグラフィックスが含まれています。</p> <p>LabVIEW を使用するには最低 256 色のカラー設定が必要ですが、ナショナルインストルメンツでは 16 ビットカラー以上を推奨します。</p> <p>LabVIEW マニュアルの PDF 版を表示するには、Adobe Reader 5.0.5 以降が必要となります。PDF を検索するには、Search and Accessibility 6.x 以降を搭載した Adobe Reader を使用してください。</p> <p>(Mac OS) PDF を参照および検索するには、Search and Accessibility 6.x 以降を搭載した Adobe Reader を使用してください。</p> <p>LabVIEW は一時ファイルの保存用にディレクトリを使用します。ナショナルインストルメンツでは、この一時ディレクトリ用に数メガバイトの空きディスク容量を確保することを推奨します。ツール→オプション→を選択して、カテゴリリストからパスを選択して、一時ディレクトリの参照または変更を行うことができます。 LabVIEW が予期せず終了した場合、ファイルが一時ディレクトリに保持される可能性があります。このディレクトリから古いファイルを削除して、ディスク空き容量を解放してください。</p> <p>(Windows) デフォルトの一時ディレクトリは、C:\¥Documents and Settings¥User¥Local Settings¥Temp などのシステムの一時ディレクトリです。</p> <p>(Mac OS) Mac OS X 10.3.9 はデフォルトの一時ディレクトリ /tmp/501/TemporaryItems、Mac OS X 10.4.x は /var/tmp/folders.501/TemporaryItems を使用します。ここで、501 は各ログイン用の固有の番号です。</p> <p>(Linux) デフォルトの一時ディレクトリは /tmp です。</p>

表 1 LabVIEW 8.5 のシステム要件 (続き)

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
<p>Windows Vista/XP/2000</p>	<p>LabVIEW を使用するには、最低 Pentium III 以上、Celeron 866 MHz または同等のプロセッサが必要ですが、ナショナルインストゥルメンツでは Pentium 4/M または同等のプロセッサを推奨します。ナショナルインストゥルメンツでは、LabVIEW の完全インストール要件として最低 1.2 GB のディスク空き容量を推奨します。</p> <p>LabVIEW で構築したアプリケーションをデプロイする場合、LabVIEW ランタイムエンジンには最低 Pentium 200 MHz または同等のプロセッサが必要ですが、ナショナルインストゥルメンツでは Pentium III 以上、Celeron 600 MHz または同等のプロセッサを推奨します。リモートでアプリケーションまたはフロントパネルを制御するために LabVIEW ランタイムエンジンを使用する場合、最低 94 MB のディスク空き容量が必要となります。LabVIEW で構築されたインストーラに含める LabVIEW ランタイムエンジンを使用する場合、最低 180 MB のディスク空き容量が必要となります。ただし、LabVIEW で構築されたインストーラに追加のナショナルインストゥルメンツのインストーラを含める場合は、余分なディスク空き容量が必要となります。</p> <p>Windows 2000 を使用する場合、LabVIEW ランタイムエンジンには Windows 2000 Service Pack 3 以降が必要となります。</p>	<p>LabVIEW は、Windows NT/Me/98/95、Windows Server Edition のすべて、Windows XP x64 をサポートしていません。Windows Vista x64 は、LabVIEW でサポートされています。</p> <p>LabVIEW を Windows 2000 で使用するには、Windows 2000 Service Pack 3 以降が必要です。</p> <p>『LabVIEW ヘルプ』、Measurement & Automation Explorer (MAX) の対話式ヘルプシステム、NI サンプルファイндаを使用するには、Microsoft Internet Explorer 5.0 以降が必要です。</p> <p>ナショナルインストゥルメンツでは、Internet Explorer を使用してリモートでフロントパネルを表示および制御する場合、Internet Explorer 5.5 Service Pack 2 以降を使用することを推奨します。</p> <p>.NET 関数およびアプリケーションを使用するには、.NET Framework 1.1 Service Pack 1 以降が必要となります。</p>

表 1 LabVIEW 8.5 のシステム要件 (続き)

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
Mac OS	<p>LabVIEW を使用するには、Mac OS X 10.3.9 以降が必要となります。</p> <p>LabVIEW は、Intel または PowerPC プロセッサを搭載した Macintosh コンピュータをサポートしています。</p> <p>PowerPC プロセッサの場合、LabVIEW のシステム要件として最低 G3 プロセッサが必要とされますが、ナショナルインスツルメンツでは G4 以上のプロセッサを推奨します。ナショナルインスツルメンツでは、LabVIEW のインストール要件として最低 502 MB の空きディスク容量、LabVIEW の完全インストール要件として 734 MB の空きディスク容量を推奨します。</p>	<p>『LabVIEW ヘルプ』を参照するには、ナショナルインスツルメンツでは Safari 1.3.2 以降または Firefox 1.0.2 以降のバージョンを使用することを推奨します。</p> <p>ナショナルインスツルメンツは、以前 PowerPC プロセッサに対応したほとんどのハードウェア用に Intel プロセッサのサポートを提供しています。</p>

表 1 LabVIEW 8.5 のシステム要件 (続き)

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
Linux	<p>OpenWindows、CDE、X11R6 などの X Window System サーバが必要です。</p> <p>ナショナルインストルメントでは、LabVIEW の最小インストール要件として最低 450 MB の空きディスク容量、LabVIEW の完全インストール要件として 640 MB の空きディスク容量を推奨します。</p> <p>LabVIEW は、カーネルバージョン 2.2.x、2.4.x または 2.6.x を含む Intel x86 プロセッサ搭載の Linux で動作します。LabVIEW には Pentium III、Celeron 866MHz または同等のプロセッサが必要とされますが、ナショナルインストルメントでは Pentium 4/M または同等のプロセッサを推奨します。</p> <p>LabVIEW は、Red Hat Enterprise Linux WS 3 以降、MandrakeLinux/Mandriva 10.0 以降、SuSE Linux 9.1 以降で動作します。また、GNU C Library バージョン 2.2.4 以降 (glibc または libc.so.6) を提供するその他の配布では、LabVIEW はハードウェアドライバのサポートなしで起動することが可能です。</p>	<p>LabVIEW は xlib を使用して独自のグラフィカルユーザインタフェース (GUI) を作成するため、Motif または OpenLook などの特殊な GUI は必要ありません。</p> <p>『LabVIEW ヘルプ』を参照するには、Mozilla 1.2 以降または Firefox 1.0.2 以降のバージョンを使用することを推奨します。</p> <p>LabVIEW を使用するには、GNU C Library バージョン 2.2.4 以降が必要です。システム全体をアップグレードする必要がないように、ほとんどの Linux 配布用に Linux ベンダではアップデートされた glibc rpm を提供しています。</p>

LabVIEW 8.5 をインストールする

インストール中にエラーが発生した場合は、技術サポートデータベース (ni.com/support/ja) を参照してください。

Windows

LabVIEW 8.5 では、Windows 用に以下の 2 つのインストールオプションが用意されています。

- **DVD**—LabVIEW、デバイスドライバ、LabVIEW SignalExpress が含まれます。
- **CD**—LabVIEW のみ含まれます。CD を使用して LabVIEW をインストールする場合、ナショナルインスツルメンツのデバイスドライバ CD を使用してデバイスドライバと LabVIEW SignalExpress をインストールします。

以下の手順に従って、Windows 対応の LabVIEW をインストールしてください。

1. インストールを始める前に自動ウイルス検出プログラムを無効にしてください。一部のウイルス検出プログラムは、インストーラの実行を妨げる場合があります。
2. 管理者または管理者権限のあるユーザとしてログインします。
3. LabVIEW 8.5 インストール DVD または CD を挿入して、画面に表示される指示に従ってください。LabVIEW をインストールするように促すプロンプトが表示され、次に画面の指示に従って LabVIEW ライセンスのアクティブ化します。LabVIEW のアクティブ化の詳細は、この章の「[LabVIEW ライセンスをアクティブ化する \(Windows\)](#)」のセクションを参照してください。



メモ

DVD を使用して LabVIEW をインストールする場合、画面の指示に従って DVD からデバイスドライバをインストールすることもできます。CD を使用して LabVIEW をインストールする場合は、手順 6 に進みデバイスドライバをインストールします。

4. インストール後、無効にしたウイルス検出プログラムを有効にします。
5. (オプション) LabVIEW アドオンをインストールします。詳細は、このドキュメントの「[LabVIEW アドオンをインストールする](#)」のセクションを参照してください。
6. (オプション) ナショナルインスツルメンツのハードウェアをインストールおよび構成します。詳細は、このドキュメントの「[ハードウェアのインストールと構成](#)」のセクションを参照してください。
7. LabVIEW の使用を開始する詳細については、この章の「[詳細情報](#)」セクションを参照してください。

現在インストールされている LabVIEW に変更を加える、または LabVIEW 8.5 をアンインストールするには、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で **National Instruments Software** を選択してください。インストールに変更を加えると、ナショナルインスツルメンツのソフトウェアのリストが表示されます。個々のコンポーネントを追加または削除する、または製品をアンインストールするには、リストから製品を選択します。複数の製品を削除するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを押しながら製品を選択します。**アンインストール** ボタンをクリックして、選択したすべての製品を削除します。



メモ

Windows XP Service Pack 2 がインストールされている、または Windows Vista を使用する場合、LabVIEW または NI サンプルファインダを最初に起動する際、**Windows セキュリティの重要な警告** ダイアログボックスが表示されます。**ブロックする** オプションを選択すると、LabVIEW VI Server、LabVIEW Web Server、LabVIEW で作成されたサーバはリモートコンピュータからの着信接続を受信できません。**ブロックを解除する** オプションを選択して、機能に影響なく LabVIEW を起動させるようにコンピュータを構成します。この問題を修正する詳細については、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/info (英語) にアクセスし、info code の `expm69` を入力してください。

Mac OS

以下の手順に従って、Mac OS 対応の LabVIEW をインストールしてください。

1. インストールを開始する前に自動ウイルス検出プログラムを無効にしてください。一部のウイルス検出プログラムは、インストーラの実行を妨げる場合があります。
2. LabVIEW 8.5 インストール CD を挿入します。
3. 適切なインストールプログラムを実行します。

LabVIEW 8.5 のインストールでは、以下のインストールのタイプが有効です。

- **Easy Install**—LabVIEW、NI-488.2 ドライバ、NI-VISA ドライバなど、すべての LabVIEW 8.5 ファイルをインストールします。このオプションは、LabVIEW のデフォルトインストールになります。
 - **Custom Install**—このオプションを選択すると、インストールするファイルを選択できます。Custom Install を選択するには、**Installation Type** ページで **Customize** ボタンをクリックします。LabVIEW 8.5 の実行に必要な LabVIEW ファイルの基礎的なセットをインストールするには、**LabVIEW 8.5** コンポーネントを選択する必要があります。
4. 画面に表示される指示に従ってください。
 5. インストール後、無効にしたウイルス検出プログラムを有効にします。

- (オプション) LabVIEW アドオンをインストールします。詳細は、このドキュメントの「[LabVIEW アドオンをインストールする](#)」のセクションを参照してください。
- (オプション) ナショナルインスツルメンツのハードウェアをインストールおよび構成します。詳細は、このドキュメントの「[ハードウェアのインストールと構成](#)」のセクションを参照してください。
- LabVIEW の使用を開始する詳細については、この章の「[詳細情報](#)」セクションを参照してください。



メモ

LabVIEW プロフェッショナル開発システムの一部のコンポーネントは、PowerPC 用にコンパイルされていません。LabVIEW 8.5 を PowerPC にインストールする場合、LabVIEW を最初に起動する際、LabVIEW で一括コンパイルするように促すプロンプトが表示されます。

LabVIEW はデフォルト以外の場所にインストールできませんが、インストール後に LabVIEW 8.5 ディレクトリを移動することが可能です。LabVIEW 8.5 ディレクトリをデフォルト以外の場所に移動した場合、その LabVIEW 8.5 ディレクトリをデフォルトの場所に戻さない限り、LabVIEW はディレクトリをアンインストールまたは削除しません。

LabVIEW 8.5 をアンインストールするには、Terminal シェルからインストール CD 上の `Uninstall.sh` シェルスクリプトを実行します。スクリプトは LabVIEW をアンインストールするのに必要なファイルを削除するように指示します。LabVIEW 8.5 ディレクトリに追加または変更したファイルを保持する場合は、LabVIEW 8.5 をアンインストールする前にそれらのファイルを別の場所に保存してください。

Linux

以下の手順に従って、Linux 対応 LabVIEW をインストールしてください。

- `root` でシステムにログインします。
- LabVIEW 8.5 インストール CD を挿入します。`mount /mnt/cdrom` コマンドで CD をマウントします。一部のシステムでは、CD は自動的にマウントされます。
- マウントされた CD に現在のディレクトリを変更するには、次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/cdrom
```
- インストールスクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
sh ./INSTALL
```
- (オプション) LabVIEW アドオンをインストールします。詳細は、このドキュメントの「[LabVIEW アドオンをインストールする](#)」のセクションを参照してください。

6. (オプション) ナショナルインストゥルメンツのハードウェアをインストールおよび構成します。詳細は、このドキュメントの「[ハードウェアのインストールと構成](#)」のセクションを参照してください。
7. LabVIEW の使用を開始する詳細については、この章の「[詳細情報](#)」セクションを参照してください。

INSTALL スクリプトによって、LabVIEW をインストールするディレクトリ (通常、`/usr/local`) を入力するように促すプロンプトが表示されます。また、このスクリプトはオプションとして NI-VISA および NI-488.2 ドライバのインストールスクリプトを実行します。INSTALL スクリプトは rpm を使用して .rpm 形式をサポートしているシステムにインストールするか、または直接その他のシステムに rpm アーカイブを抽出します。また、Red Hat システムまたはその他の rpm ベースのシステムで rpm (または GUI rpm) ベースのインストールツールを使用するか、または LabVIEW インストール CD 上の bin ディレクトリのユーティリティを使用して rpm なしのシステムに手動でファイルをインストールできます。

デフォルトの場所に Netscape または Mozilla をインストールした場合、ウェブブラウザを使用してフロントパネルの表示と制御をリモートで行うことができるように、LabVIEW のインストールプログラムは自動的にブラウザプラグインをインストールします。そうでない場合、LabVIEW ランタイムエンジンをインストールして、`/usr/local/lib/LabVIEW-8.5/LV85NPlugin.so` を `/usr/lib/netscape/plugins`、`/opt/SUNWns/plugins`、または `/usr/lib/mozilla/plugins` などのブラウザプラグインディレクトリにコピーして、ブラウザプラグインを手動でインストールすることができます。



メモ Firefox のブラウザプラグインは手動でインストールする必要があります。

カスタムインストールの手順やその他の情報については、`/mnt/cdrom/linux` にある `readme.html` ドキュメントを参照してください。

Linux で発生する一般的な LabVIEW の起動エラー

以下の表は、Linux 対応の LabVIEW を起動する際に発生する可能性のある一般的なエラーをリストします。

エラー	考えられる原因とソリューション
Xlib: connection to :0.0 refused by server	考えられる原因 —ディスプレイサーバ上でウィンドウを開く操作を許可されていないユーザとして LabVIEW の起動を試みています。通常、これらのエラーは、su コマンドを実行して root (スーパーユーザ) などの一時的に異なるユーザとなると発生します。 ソリューション —su コマンドを終了して、ログインユーザとして LabVIEW を起動するか、xhost または xauth コマンドを使用してディスプレイサーバ上にウィンドウを開く操作を許可します。
client is not authorized to connect to server	
internal error during connection authorization check	

Linux 対応の LabVIEW を起動する際に発生する可能性があるその他のエラーの詳細は、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/support/ja を参照してください。

LabVIEW アドオンをインストールする

特殊なアプリケーションの開発用の数種のアドオンソフトウェアツールキットおよびモジュールを購入できます。アドオンはすべてシームレスに LabVIEW に統合されます。

LabVIEW 8.5 をインストールした後、以下の手順に従って、LabVIEW アドオンをインストールしてください。

1. コンピュータを再起動します。
2. インストールを開始する前に自動ウイルス検出プログラムを無効にしてください。一部のウイルス検出プログラムは、インストーラの実行を妨げる場合があります。
3. LabVIEW モジュールまたはツールキットのインストール CD を挿入し、画面に表示される指示に従います。
4. インストール後、無効にしたウイルス検出プログラムを有効にします。



メモ

LabVIEW 8.5 は、旧バージョンの LabVIEW 用に設計されたアドオンをサポートしない場合があります。現在のバージョンの LabVIEW と互換性のある LabVIEW モジュールおよびツールキットの詳細については、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/info (英語) にアクセスし、info code の compat を入力して情報を参照してください。

ナショナルインスツルメンツのアドオンの詳細については、『LabVIEW ヘルプ』およびナショナルインスツルメンツのウェブサイト (ni.com/toolkits/ja) を参照してください。ツールキットディレクトリを一括コンパイルする手順など、インストール方法の詳細については、特定のアドオンのドキュメントを参照してください。

アプリケーションビルダをインストールする

(Windows) LabVIEW をインストールする際、LabVIEW はアプリケーションビルダをインストールします。アプリケーションビルダを使用するためにアクティブ化する詳細は、「アプリケーションビルダをアクティブ化する」のセクションを参照してください。

(Mac OS および Linux) LabVIEW プロフェッショナル開発システムをインストールする際、LabVIEW はアプリケーションビルダをインストールします。LabVIEW 開発システムをインストールする場合は、アプリケーションビルダを別途購入する必要があります。アップグレードアドバイザーにアクセスし、アプリケーションビルダを購入するには、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/info (英語) にアクセスし、info code として exd8yy と入力してください。

LabVIEW ライセンスをアクティブ化する (Windows)

LabVIEW はライセンスのアクティブ化に依存します。一時ライセンスは、30 日間の評価期間が設けられています。LabVIEW のライセンスをアクティブ化しない場合、30 日間の評価期間中 LabVIEW はデフォルトで評価モードで動作します。評価期間が終了した場合、LabVIEW の使用を続けるには、有効な LabVIEW ライセンスをアクティブ化する必要があります。

LabVIEW ライセンスをアクティブ化するには、インストールパッケージの一部として受領したシリアル番号を使用します。以下の手順に従って、LabVIEW ライセンスをアクティブ化できます。

- インストール中にシリアル番号を入力し、インストールの最後に NI アクティブ化ウィザードを実行するオプションを選択します。
- 評価モードで LabVIEW を起動した後、**LabVIEW** ダイアログボックスで**アクティブ化**ボタンをクリックします。
- 評価モードで LabVIEW を実行中、**ヘルプ**→**LabVIEW をアクティブ化**を選択します。ライセンスのアクティブ化は、LabVIEW を再起動するまで有効になりません。
- **スタート**→**すべてのプログラム**→**National Instruments**→**NI License Manager**を選択して、NI License Manager を起動します。ツールバーの**アクティブ化**ボタンをクリックします。

インストール中に LabVIEW をアクティブ化しない場合は、LabVIEW の起動時に LabVIEW でアクティブ化するように促すプロンプトが表示されます。LabVIEW ライセンスをいったんアクティブ化すると、このプロンプトは表示されません。アクティブ化に失敗した場合、30 日の評価期間が終了するまで LabVIEW は評価版モードで動作します。

LabVIEW を再インストールすることで、評価期間をリセットすることはできません。

LabVIEW へのアクセスはライセンスのアクティブ化に依存する

お客様が購入された LabVIEW の特定のバージョンに有効なライセンスがない VI およびライブラリでは、以下の操作を実行できません。

- ブロックダイアグラムにアクセス、またはブロックダイアグラムを印刷する
- フロントパネルまたはブロックダイアグラムを編集する
- 多態性 VI を編集する
- VI を実行します。
- サブ VI として VI を使用する親 VI を実行する
- VI を LabVIEW の旧バージョン形式で保存する、または**ファイル→別名で保存**を選択する
- 比較操作を完了する
- ライブラリへ項目をドラッグアンドドロップする

LabVIEW が評価モードで VI を開く場合、以下の操作は実行できません。

- ブロックダイアグラムにアクセス、またはブロックダイアグラムを印刷する
- フロントパネルまたはブロックダイアグラムを編集する

LabVIEW を評価モードで実行している場合、LabVIEW ベースパッケージの LabVIEW ライセンスを購入し、LabVIEW をアクティブ化すると、LabVIEW 開発システムまたはプロフェッショナル開発システムバージョンに限定される VI はすべて壊れます。サブ VI としてこれらの VI を使用する親 VI も壊れます。同様に、LabVIEW を評価モードで実行する場合、LabVIEW 開発システムの LabVIEW ライセンスを購入し、LabVIEW をアクティブ化すると、プロフェッショナル開発システムバージョンに限定される VI はすべて壊れます。サブ VI としてこれらの VI を使用する親 VI も壊れます。**エラーリスト**ウィンドウにライセンスエラーが表示されます。LabVIEW の評価版の制約についての詳細は、ナショナルインストルメンツのウェブサイト ni.com/info (英語) にアクセスし、info code として exe3wi と入力してください。

シングルシートおよびマルチシートライセンス

LabVIEW はシングルシートとマルチシートの両方のライセンスをサポートしています。シングルシートライセンスとは、最大 3 台までのコンピュータで 1 人のユーザのみによる LabVIEW の使用のことです。マルチシート（ボリューム）ライセンスとは、複数のコンピュータまたは複数のユーザによる LabVIEW の使用のことです。LabVIEW を使用する各シートには、ライセンスサーバからの有効なライセンスが必要です。詳細については、ナショナルインストルメンツのウェブサイト ni.com/license（英語）を参照してください。

ライブラリ、モジュール、ツールキットのライセンス

PDA モジュール、組込開発モジュール、Real-Time Execution Trace Toolkit 2.0（Real-Time 実行トレースツールキット 2.0）はライセンスされた製品であり、これらの製品のライセンス化およびアクティブ化は LabVIEW からではなくそれぞれの製品を通して行う必要があります。LabVIEW 開発システムおよび LabVIEW プロフェッショナル開発システムに付属のリモートパネルサーバのライセンス化も同様に行いますが、追加のシートの購入が可能です。

アプリケーションビルダをアクティブ化する

LabVIEW プロフェッショナル開発システムには、LabVIEW をアクティブ化すると LabVIEW によってアクティブ化されるアプリケーションビルダが含まれます。

アクティブ化された LabVIEW ベースパッケージまたは開発システムのバージョンを使用する場合、**ヘルプ→アプリケーションビルダをアクティブ化**を選択して、アプリケーションビルダをアクティブ化および使用します。ライセンスは、LabVIEW を再起動すると有効になります。

また、**スタート→すべてのプログラム→National Instruments → NI License Manager** を選択して、NI License Manager を起動してアプリケーションビルダをアクティブ化することができます。次に、**Application Builder for LabVIEW Base/Full/Student** を選択して、**アプリケーション化**ボタンをクリックします。

ハードウェアのインストールと構成

LabVIEW ソフトウェアをインストールすると、ナショナルインストルメンツのハードウェアの使用に必要なドライバをインストールできます。ナショナルインストルメンツのすべてのデバイスには、デバイスに必要なドライバおよびソフトウェアが含まれています。ナショナルインストルメンツのデバイスドライバ CD には、ナショナルインストルメンツのハードウェアに必要なドライバとその他のソフトウェアが含まれています。LabVIEW にパッケージとして含まれているドライバとデバイスにパッケージとして含まれているドライバではバージョンが異なる場合があります。

LabVIEW は、ご使用のシステムのデバイスをサポートしている利用可能な最新のドライバと最適に動作します。NI-DAQ 7.0 以降のバージョンを使用している場合、ご使用のシステムのデバイスに使用するドライバのバージョンについては、『NI-DAQ Readme』を参照してください。



メモ

ナショナルインスツルメンツでは、デバイスドライバの定期的なアップデートを提供しています。最新のドライバをダウンロードするには、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/info (英語) にアクセスし、info code の exyckh を入力してください。

(Windows) インストールされたドライバのバージョン番号を確認するには、Measurement & Automation Explorer (MAX) またはコントロールパネルでアプリケーションの追加と削除プログラムを使用します。

デバイスのドライバをインストールした後、ナショナルインスツルメンツのハードウェアを構成します。

Windows

MAX を使用して、LabVIEW がデバイスを認識していることを確認、アクセサリやデバイス設定を構成、また信号の集録や生成機能などのデバイスの機能をテストするテストパネルを実行します。**スタート→すべてのプログラム→National Instruments→Measurement & Automation** を選択するか、デスクトップの **Measurement & Automation** アイコンをダブルクリックして、MAX を起動します。NI-DAQ 7.4 以降のバージョンを使用している場合、MAX を使用して DAQ デバイスを構成する詳細については、『NI-DAQ 7.x 用 DAQ クイックスタートガイド』を参照してください。NI-DAQ 7.5 以降を使用している場合は、『DAQ スタートアップガイド』を参照してください。

仮想チャンネルを構成する方法は、従来型 NI-DAQ (レガシー) または NI-DAQmx のどちらを使用しているかにより異なります。従来型 NI-DAQ (レガシー) のチャンネルを構成する、または NI-DAQmx のチャンネルまたはタスクを構成する詳細については、『LabVIEW ヘルプ』の **目次** タブで **スタートアップ→DAQ 入門** のブックアイコンを参照してください。

Mac OS

LabVIEW インストールプログラムでは、デフォルトで GPIB インタフェース用の NI-VISA ドライバと NI-488.2 ドライバが自動的にインストールされます。



メモ

(Mac OS) 現在 LabVIEW は NI-DAQmx ドライバソフトウェアをサポートしていません。NI-DAQmx Base は、Mac OS 対応の NI-DAQmx 機能のサブセットを提供します。NI-DAQmx Base をダウンロードするには、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/info (英語) にアクセスし、info code の exf8fb を入力してください。

Linux

LabVIEW のインストールプログラムでは、使用中の GPIB インタフェースの NI-488.2 ドライバを選択して、ドライバが自動的にインストールするように促すプロンプトが表示されます。



メモ

LabVIEW は、GPIB-1014 シリーズ (VME) デバイスまたは初期の GPIB-SCSI ボックスはサポートしていません。ただし、GPIB-SCSI-A ボックスは LabVIEW によってサポートされています。

Linux 対応 NI-DAQmx は、数種の PXI、PCI、SCXI ナショナルインストルメントのデータ集録デバイスをサポートしています。サポートされたデバイスのリストについては、『NI-DAQmx Readme for Linux』を参照してください。Linux 対応 NI-DAQmx ドライバをインストールした後、ナショナルインストルメントのデータ集録デバイスをテストおよび構成する詳細について、`/usr/local/natinst/nidaqmx/docs/ConfigurationGuide.html` で『NI-DAQmx for Linux Configuration Guide』を参照してください。

Linux 対応 NI-DAQmx Base は、数種のナショナルインストルメントの USB データ集録デバイスをサポートしています。サポートされたデバイスのリストについては、『Readme for NI-DAQmx Base』を参照してください。ドライバのドキュメントは、`/usr/local/natinst/nidaqmxbase/documentation` ディレクトリにインストールされます。NI-DAQmx Base の詳細については、『LabVIEW ヘルプ』を参照してください。

詳細情報

新機能とアップグレードにおける問題、プログラミングの概念、操作手順、既知の問題など、LabVIEW の詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

LabVIEW スタートアップガイド

はじめてご使用になる場合は、『LabVIEW スタートアップガイド』マニュアルの演習を完了して、LabVIEW のグラフィカルプログラミング環境とデータ集録および計測器制御アプリケーションの作成に使用する LabVIEW の基本機能を習得してください。

LabVIEW アップグレードノート

LabVIEW アップグレードノートでは、Windows、Mac OS、Linux 対応の LabVIEW をバージョン 8.5 にアップグレードする手順、アップグレードする際に発生する可能性のある問題と新機能について説明します。

LabVIEW ヘルプ

LabVIEW プログラミングの概念、LabVIEW の使用手順、および LabVIEW の VI、関数、パレット、メニュー、ツール、プロパティ、メソッド、イベント、ダイアログボックスなどに関するリファレンス情報については、『LabVIEW ヘルプ』を参照してください。**ヘルプ→LabVIEW ヘルプを検索**を選択して、『LabVIEW ヘルプ』にアクセスします。『LabVIEW ヘルプ』を使用する詳細については、『LabVIEW ヘルプ』の**目次**タブにある**ヘルプを使用する**ブックアイコンを参照してください。

また、『LabVIEW ヘルプ』には、ナショナルインスツルメンツが提供する LabVIEW ドキュメントのリソースのリストが含まれています。ドキュメントのリストについては、『LabVIEW ヘルプ』の**目次**タブにある**LabVIEW ドキュメントリソース**のブックアイコンを参照してください。

Readme

インストールおよびアップグレードに関する問題、互換性の問題、LabVIEW の現在のバージョンで修正されたバグリストの一部、以前のバージョンの LabVIEW から変更された点、LabVIEW の既知の問題など、LabVIEW の詳細は、labview ディレクトリの readme.html ファイルを参照してください。

ni.com

サンプル VI を含むウェブリソースについては、ni.com/labview を参照してください。ディスカッションフォーラムについては、ni.com/labviewzone をご覧ください。

National Instruments, NI, ni.com, および LabVIEW は National Instruments Corporation (米国ナショナルインストルメンツ社) の商標です。National Instruments の商標の詳細については、ni.com/legal の「Terms of Use」セクションを参照してください。本文中に記載されたその他の製品名および企業名は、それぞれの企業の商標または商号です。National Instruments の製品を保護する特許については、ソフトウェアに含まれている特許情報 (**ヘルプ→特許情報**)、CD に含まれている patents.txt ファイル、または ni.com/patents のうち、該当するリソースから参照してください。USI (Xerces C++, ICU, HDF5, Citadel 5, b64 library, Stingray) にて使用される一定の部品に関する著作権表示、条件および免責条項は、USICopyrights.chm を参照してください。